
盟和産業株式会社
2023年3月期 決算説明会資料

2023年5月30日



- I 決算レビュー
- II 通期業績見通しおよび
重点取組み
- III 株主還元
- IV (ご参考) 売上高の内訳等

I 決算レビュー

決算の主なポイント

◆ 自動車生産回復傾向、通期で増収

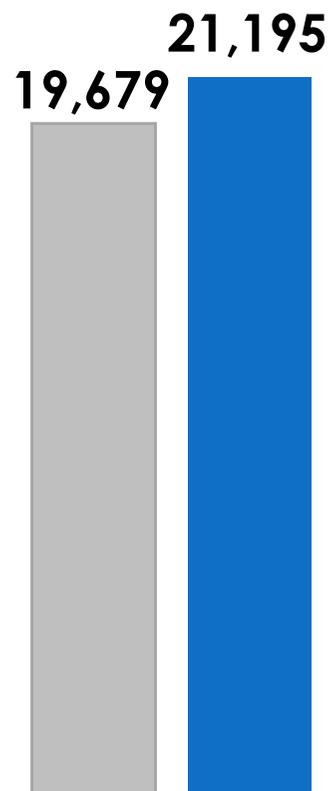
半導体供給不足の影響は徐々に改善、中国都市封鎖の4-6月期をボトムに自動車生産回復傾向、通期で増収

◆ 通期営業黒字回復

受注変動や急激な原材料価格・エネルギーコストの上昇に対して原価低減・経費圧縮と価格転嫁に取り組み、上期赤字計上も通期で営業黒字回復

連結業績の概要

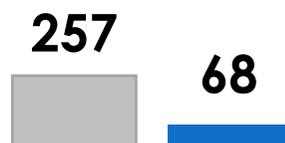
(百万円)



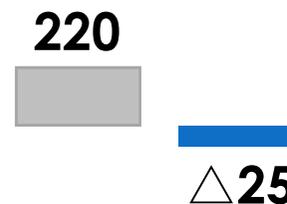
半導体供給不足は改善傾向
上期は上海ロックダウン影響を受けたが
為替換算影響もあり前期比7.7%増収

■ 2022/3期
■ 2023/3期

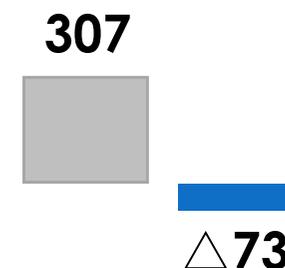
通期で営業黒字回復



リファイナンス費用他
営業外支払手数料
増加



22/3期は有価証券
売却益213計上



売上高

営業利益

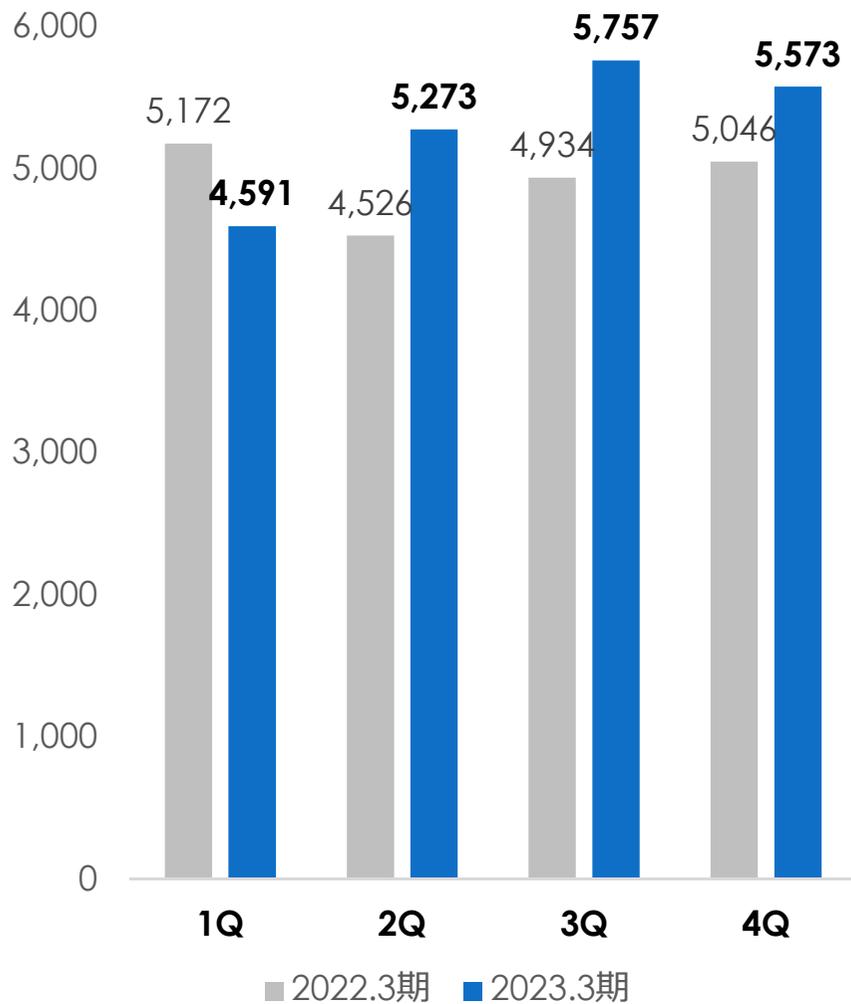
経常利益

親会社株主に帰属する
当期純利益

四半期毎業績推移

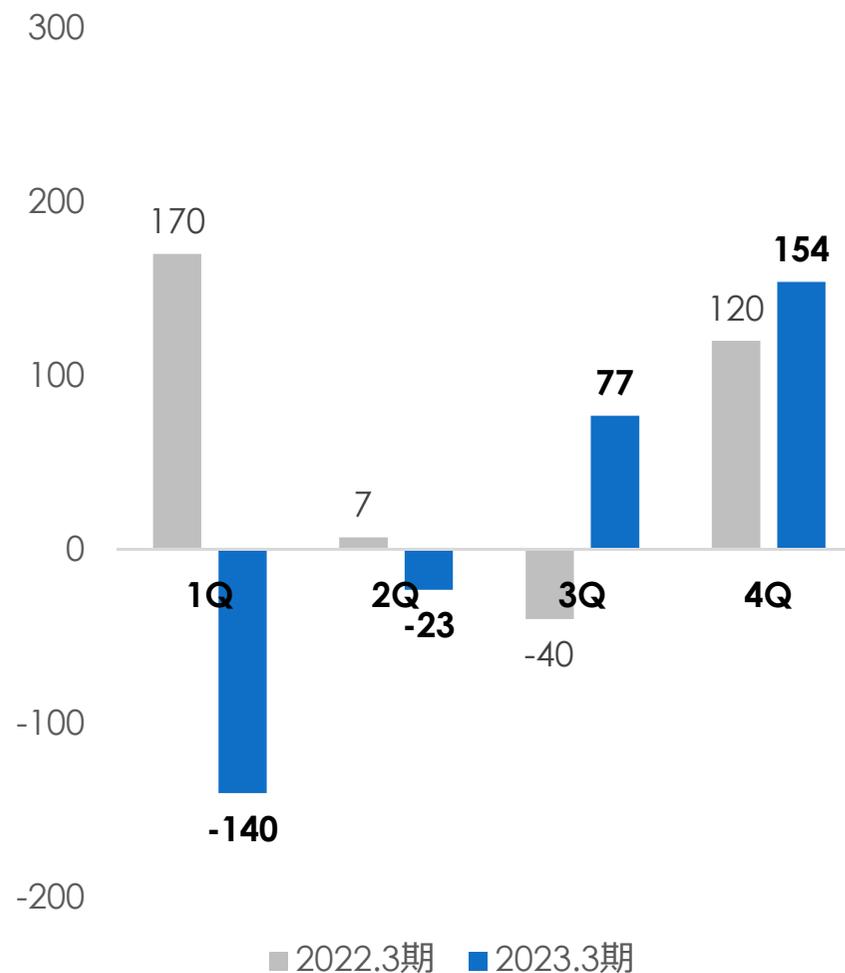
7,000 百万円

売上高

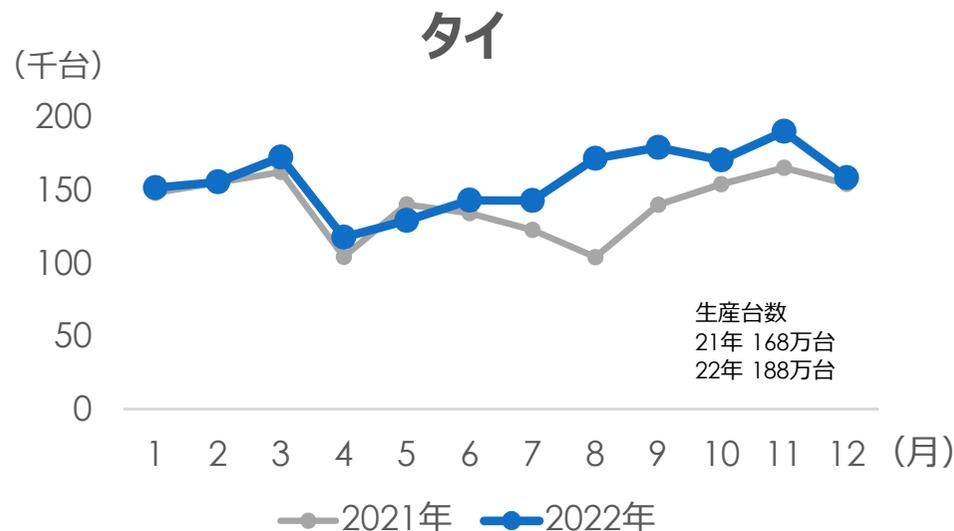
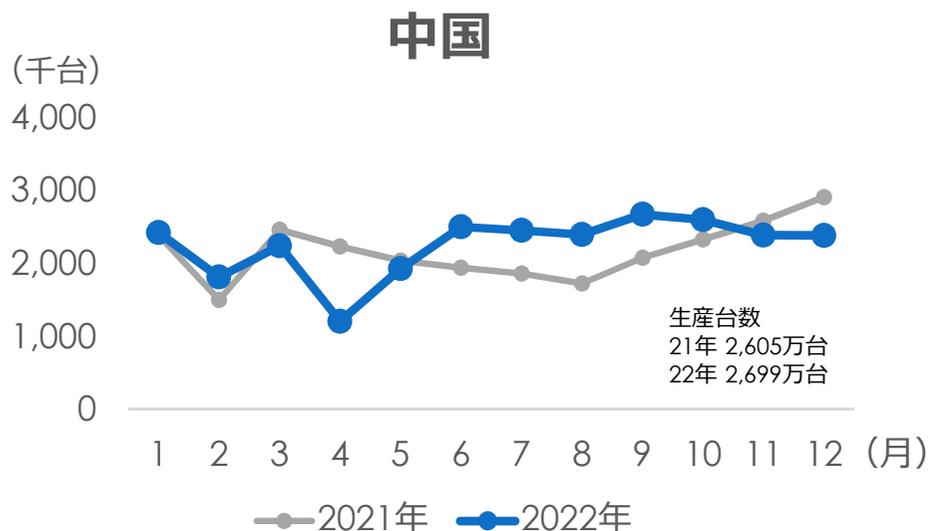
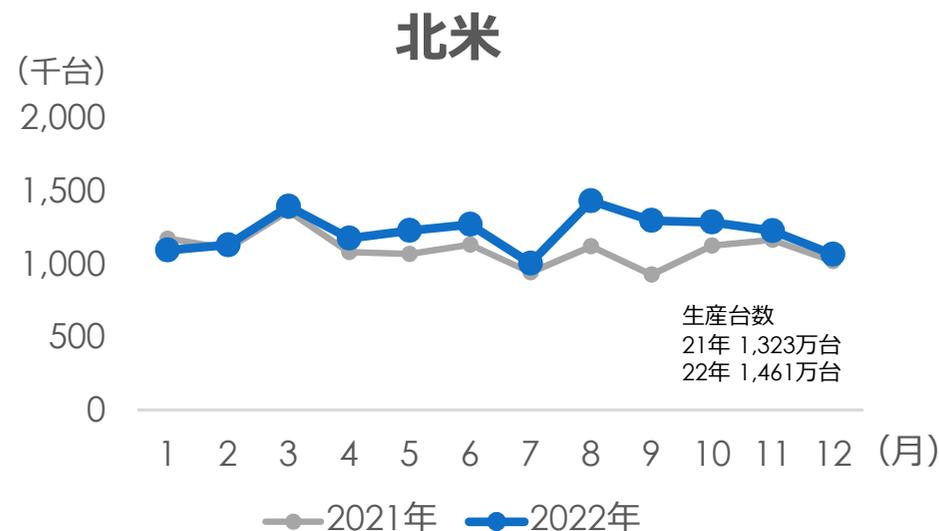


400 百万円

営業利益



自動車生産台数推移 (月別)



住宅セグメント業績

◆住設資材堅調

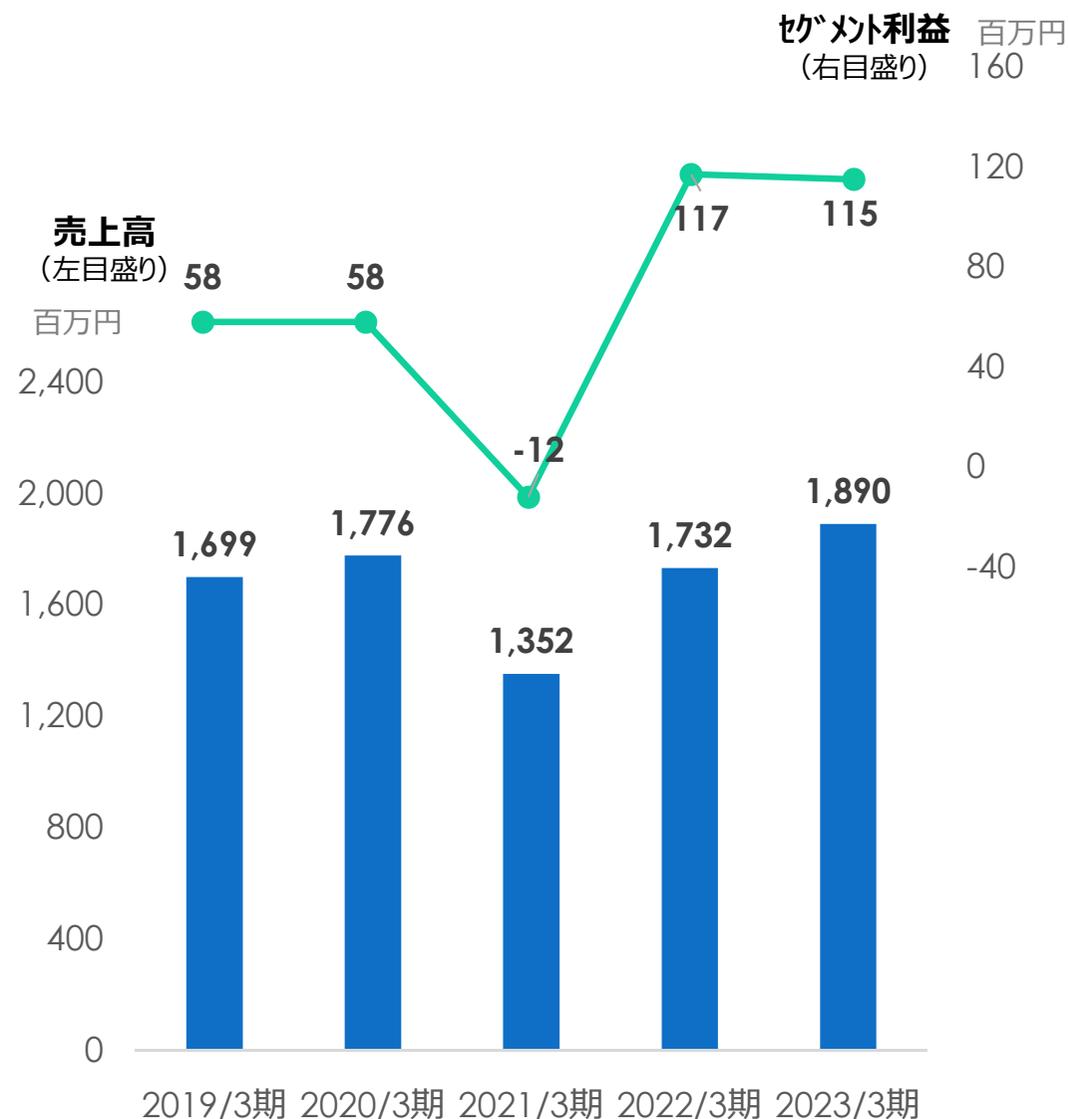
原材料価格上昇しているものの需要堅調

効率的な運営体制でセグメント利益確保

◆新分野開拓

避難所用品等新分野開拓に注力

住宅セグメント業績推移

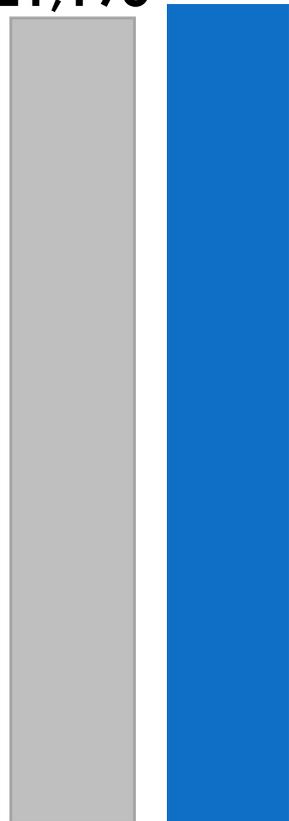


Ⅱ 通期業績見通しおよび 重点取組み

通期業績見通し

(百万円)

21,195
22,400

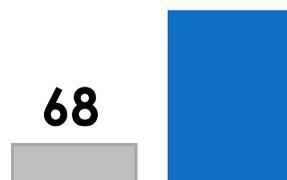


半導体供給不足の影響残るものの
自動車生産台数は増加見込

■ 2023/3期実績
■ 2024/3期予想

自動車の受注変動に対する効率的な生産体制を構築、
原価低減の強化とコスト上昇分の転嫁に取り組む

68
360



営業利益

260



△25

経常利益

160



△73

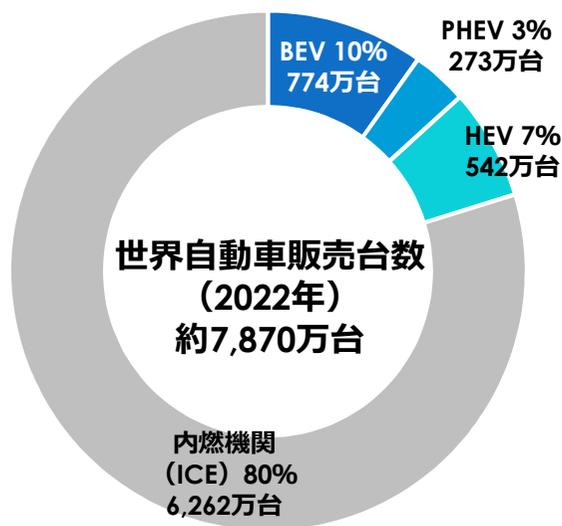
親会社株主に帰属する
当期純利益

自動車産業の変化：EV（BEV）の進展

◆EV（電気自動車）の販売台数比率

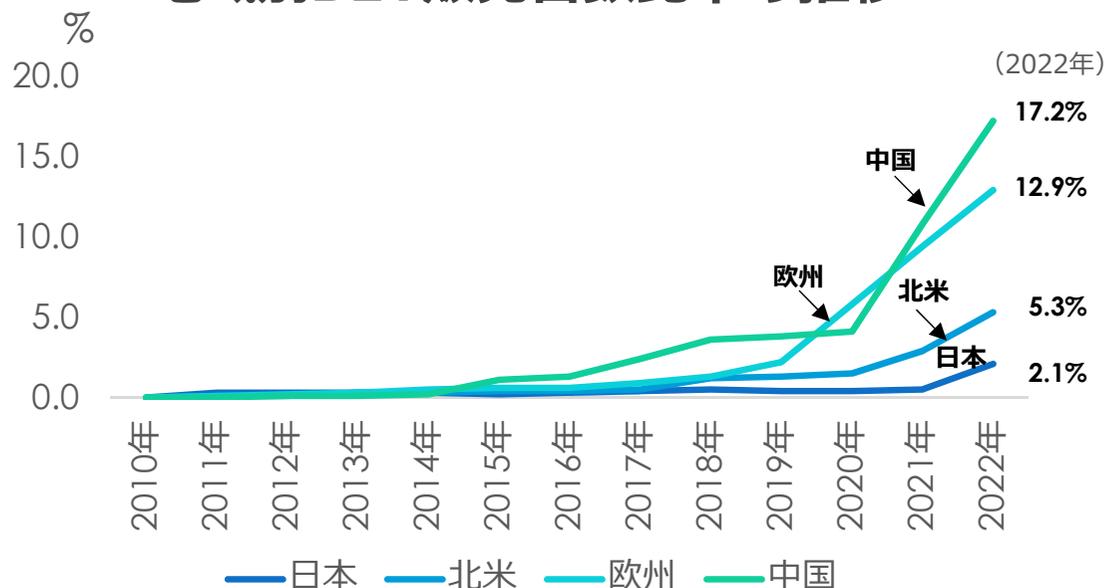
- 2022年（暦年）の世界自動車販売台数約7,870万台のうちEV（電気自動車：BEV）が約10%（約774万台）を占める
- 特に中国・欧州で販売台数の増加が顕著

世界自動車販売内訳



出典：経済産業省HP掲載資料

地域別BEV販売台数比率の推移



出典：マークラインズ、IEAデータより当社作成

◆ 新技術開発 – EVに求められる競争力

- 内装部品は電動車でも形状不変、価格・軽量・性能（吸音等）で競争力高める
- EV特有の部品の開発提案進める

◆ EVに対応した市場開拓

- 主力の日系OEMに加え中国EVメーカーからの受注拡大図る

◆ EV化の先にある脱炭素（CN）化の取組

- 製品端材に加え、市場回収リサイクル材料活用

新技術開発 開発テーマ (例)

NO	分野	開発テーマ		期待する効果	SDGsとの関連
1	自動車 内装部品	軽量・高剛性ラゲージボード	EV CN	軽量 高性能	7、9
2		CE（サーキュラーエコノミー）対応製品	CN	資源循環	12、13
3		消臭機能付き自動車内装製品		快適性	3
4		吸遮音材製品	EV	静粛性	3、9
5		社内端材リサイクル製品	CN	資源循環	12、13
6	住宅	住設資材の施工性改善		省エネ施工	7、11
7	生産工法	新シートバック生産設備		省エネ	7、12
8		新超音波溶着設備		省エネ	7、12

■ 研究開発費 (技術者の人件費等を含む)

2023年3月期 3.7億円

◆ 開発部署の統合 (2023年1月)

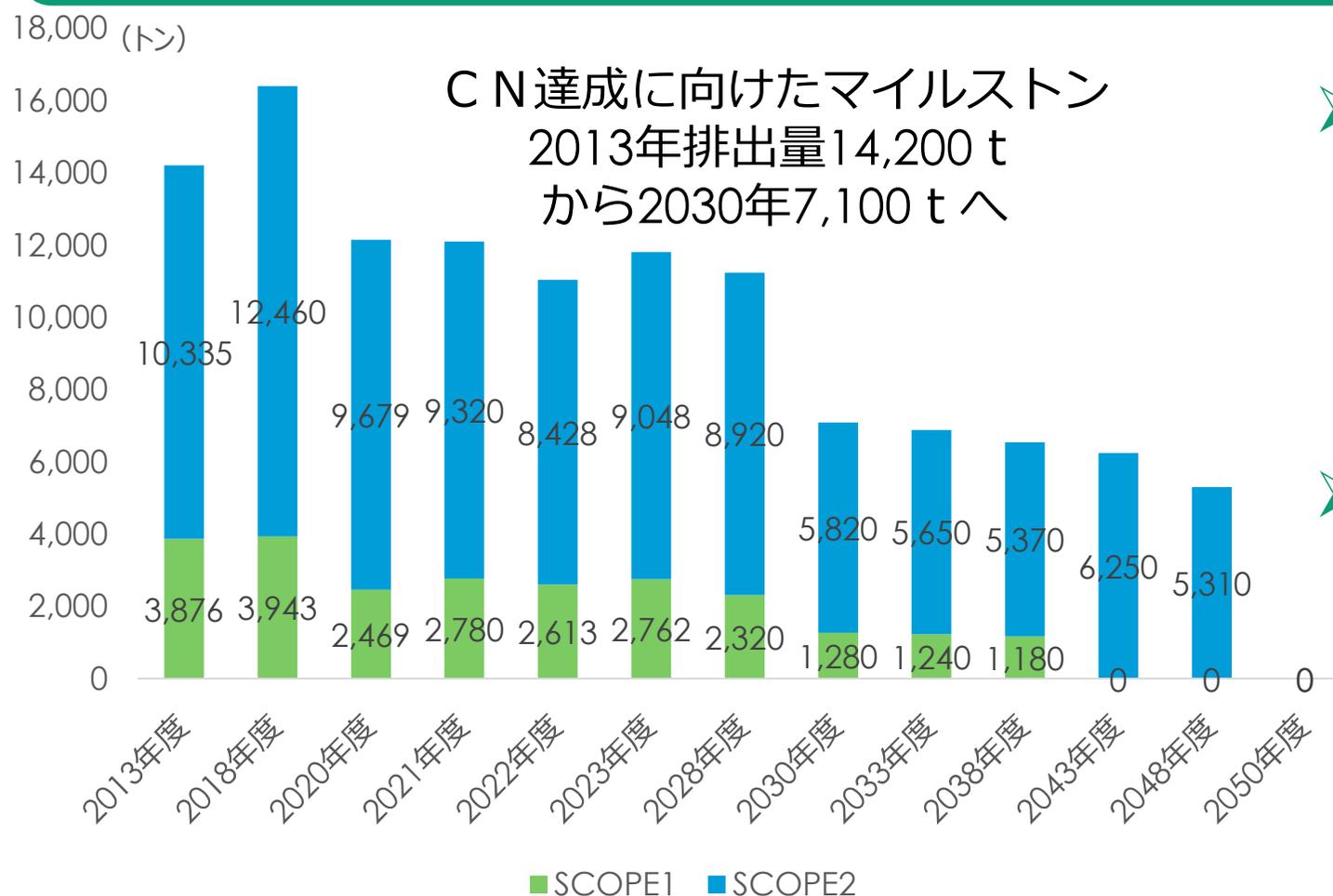
複数部署の開発要員を一本化

「開発部」として改組・統合し新技術開発を加速



脱炭素（CN）対応 気候変動への取組み

目標：2050年カーボンニュートラル達成
2030年までに2013年比で50%削減（SCOPE 1, 2）



➤ 設備更新時に
G H G排出量
の少ないもの
へ転換

➤ 設備毎のエネ
ルギー量把握
に向け電力計
設置進める

生産変動への対応 収益力強化

- 半導体供給不足の影響はしばらく残る

生産変動に対応した効率的な製造工程構築

- 材料価格、エネルギーコスト高止まり

原価低減と価格転嫁進める

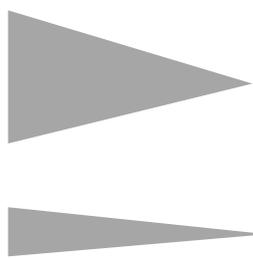
- ✓ 工場間接部門の統合・再編 (2023年4月)

3工場の間接部門を2生産部に再編

岐阜工場

甲府工場

長野工場



第1生産部

第2生産部

中期経営計画見直し

◆ 最近の事業環境

- コロナ禍は収束方向も半導体供給不足の影響残り、材料・エネルギーコストは高止まり
- インフレ進行、欧米の金融引締めと景気後退懸念、地政学リスク増大

足許の収益確保優先

◆ 自動車業界の変革期：EV化、脱炭素化の進展

- 2019年4月の計画作成時点から環境変化

事業環境の変化を踏まえて計画見直し

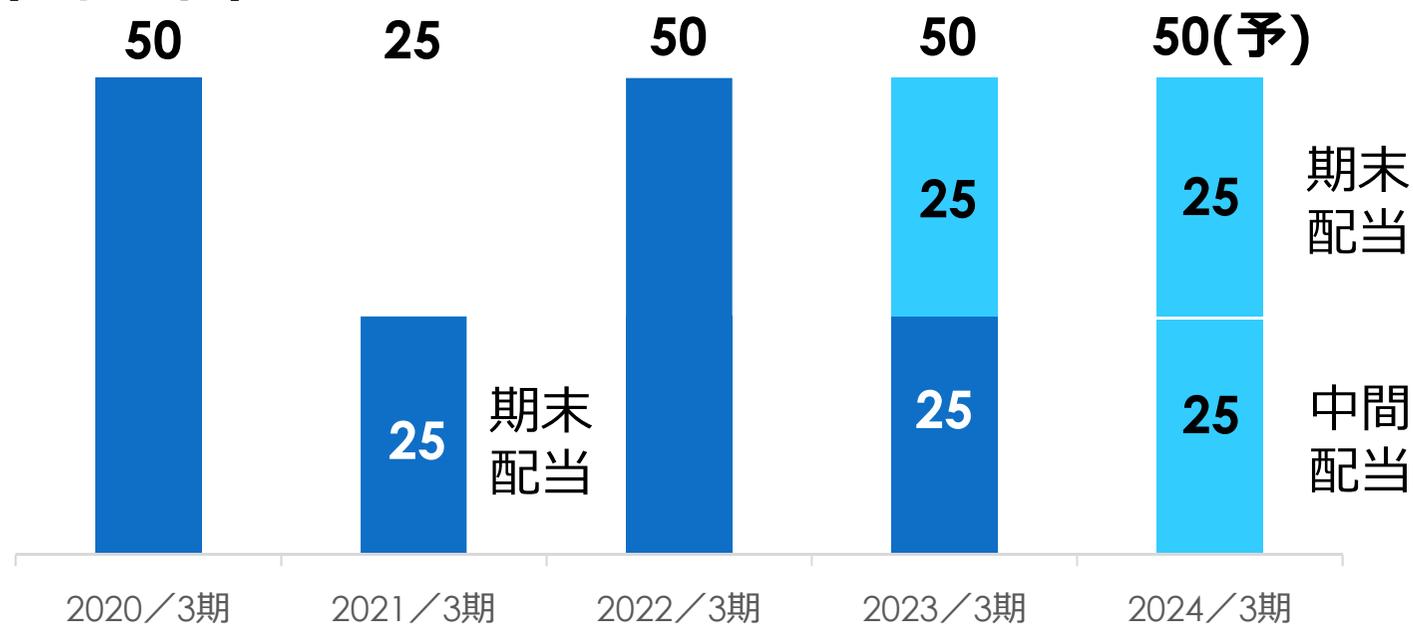
Ⅲ 株主還元

利益配分に関する基本方針

企業基盤強化のために必要な内部留保を確保しながら、安定的な配当の継続を基本に、業績および配当性向等を総合的に勘案して配当を決定

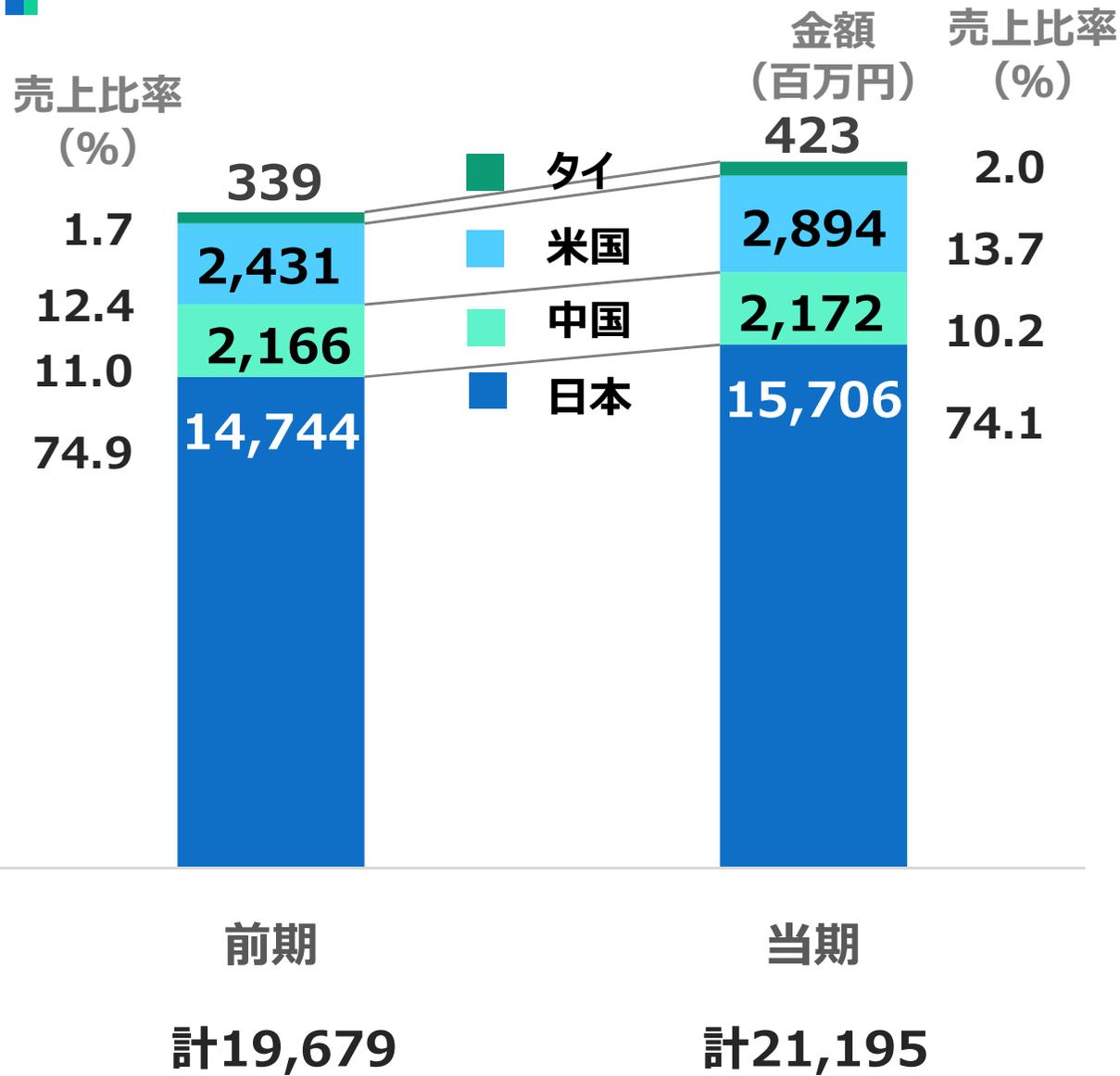
一株当たり配当金の推移

(単位：円)



IV (ご参考) 売上高の内訳等

地域別売上高



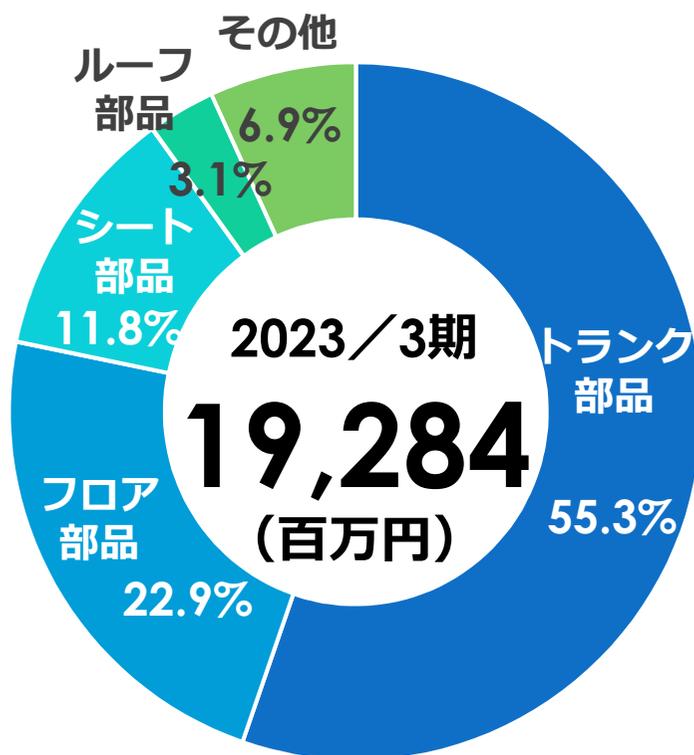
■ 全ての地域で増収

■ 海外売上比率25.9%
前期比0.8ポイント増加

自動車部品の部位別売上高

売上構成はトランク部品が約 5 割

自動車部品売上高



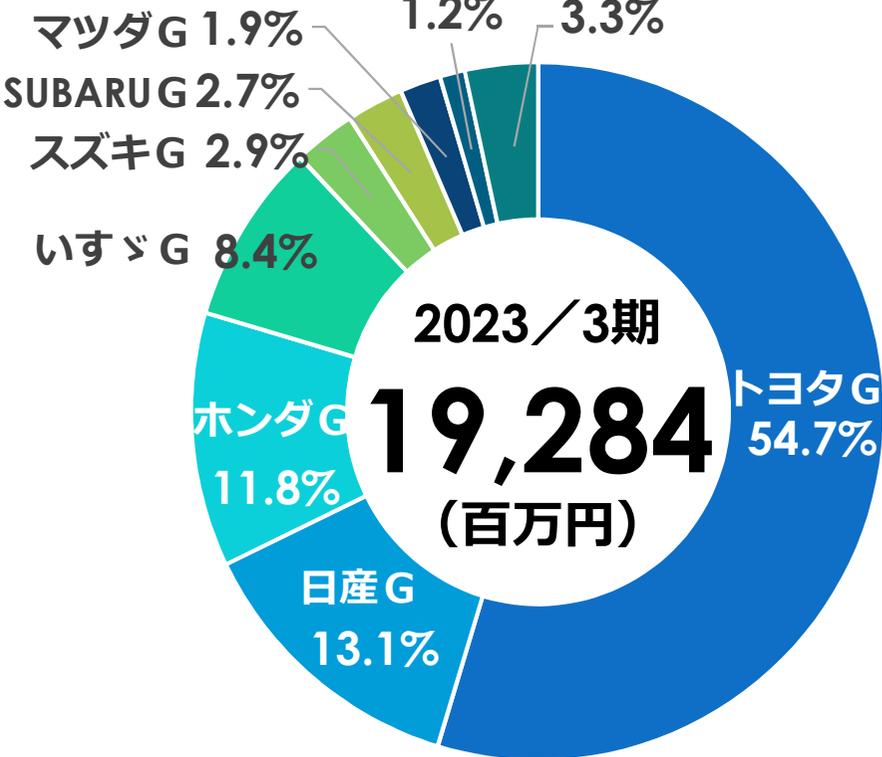
	金額 (百万円)	構成比 (%)
■ トランク部品	10,663	55.3
■ フロア部品	4,421	22.9
■ シート部品	2,275	11.8
■ ルーフ部品	605	3.1
■ その他	1,318	6.9

自動車部品のメーカー別売上高

トヨタグループ向けが約5割

自動車部品売上高

三菱G 1.2%
その他 3.3%

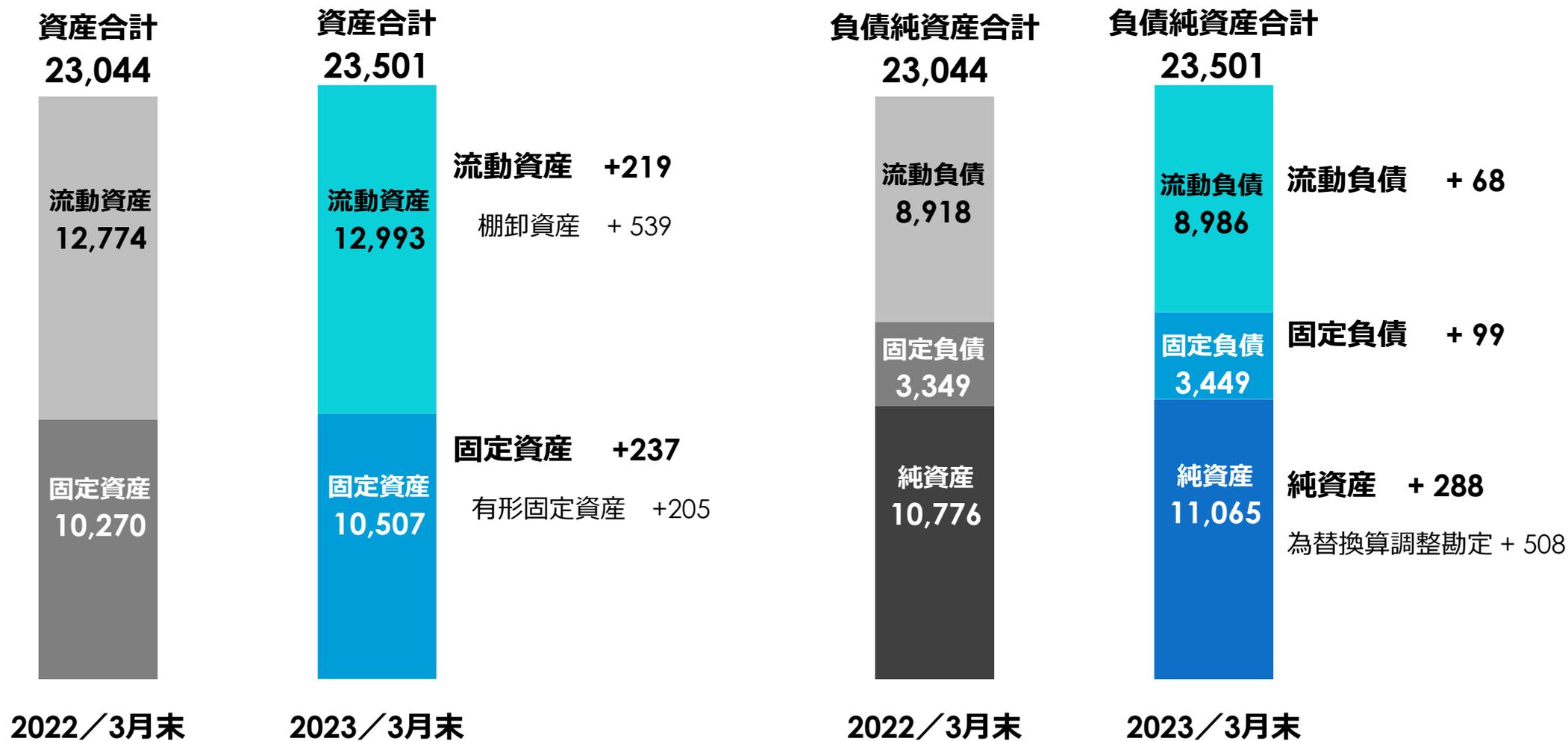


金額 (百万円) 構成比 (%)

■ トヨタG	10,544	54.7
■ 日産G	2,533	13.1
■ ホンダG	2,269	11.8
■ いすゞG	1,618	8.4
■ スズキG	559	2.9
■ SUBARU G	511	2.7
■ マツダG	367	1.9
■ 三菱G	225	1.2
■ その他	655	3.3

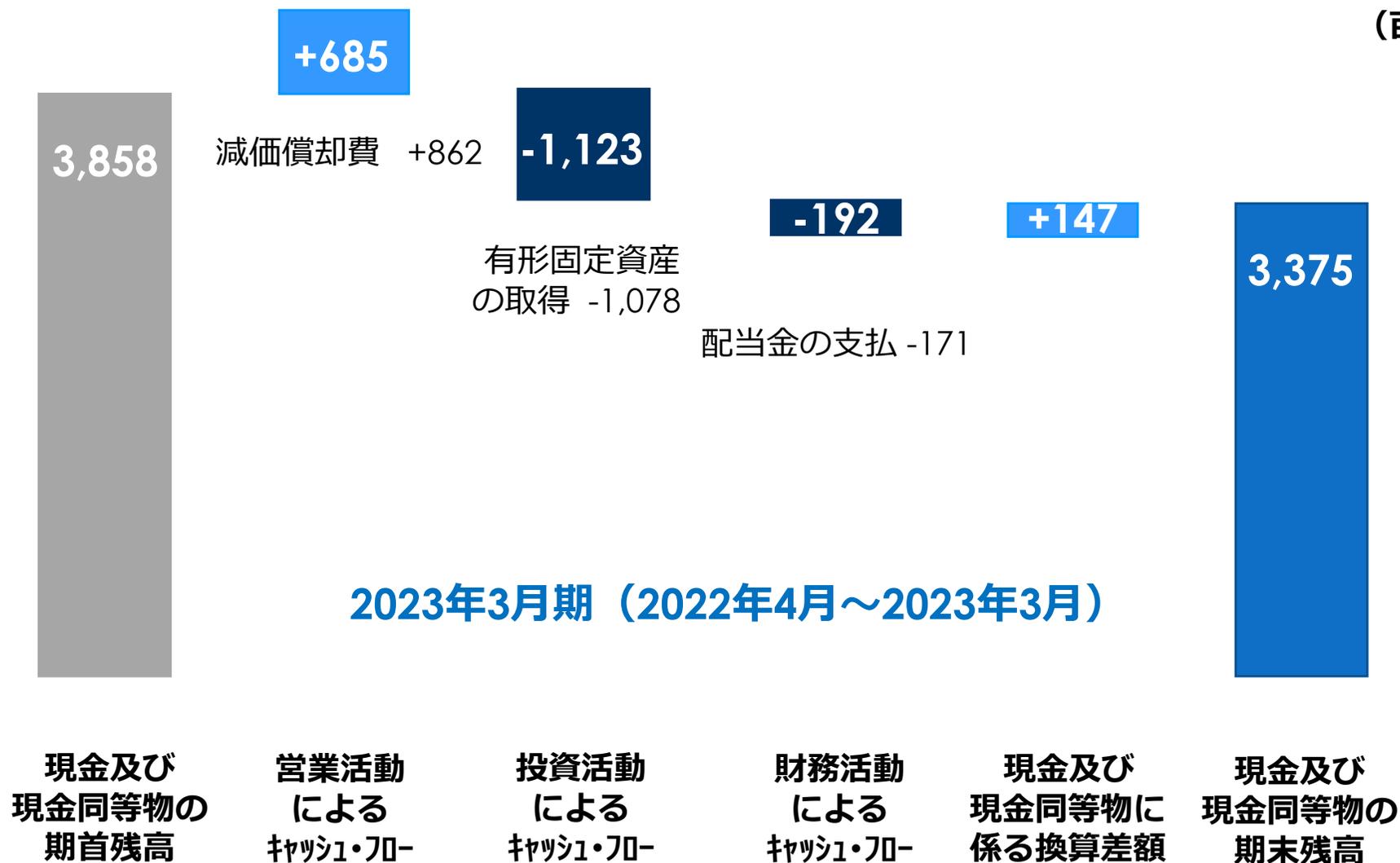
バランスシートの概要

(百万円)



キャッシュフロー計算書の概要

(百万円)



本資料に記載されている将来に関する見通しは、不確定なリスク要因を含んでおります。したがって、実際の結果は様々な要因によって見通しと大きく異なる可能性があります。ご了承ください。

盟和産業株式会社

